



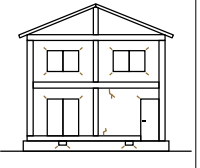
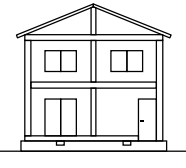


■熊本地震における木造住宅の建築時期別の損傷比率（建築学会によって実施された益城町中心部における悉皆調査より）

損傷ランク		V (破壊) 倒壊	IV (大破) 全壊	Ⅲ (中破) 大規模半壊	Ⅱ (小破) 半壊	I (軽微) 一部損壊	無被害
損傷比率 ※1	旧耐震基準 ～1981年6月	214棟 (28.2%)	133棟 (17.5%)	373棟 (49.1%)		39棟 (5.1%)	
	1981年6月 ～2000年5月	76棟 (8.7%)	85棟 (9.7%)	537棟 (61.2%)		179棟 (20.4%)	
	2000年 6月～	7棟 (2.2%) ※2	12棟 (3.8%)	104棟 (32.6%)		196棟 (61.4%)	
	新耐震基準 うち耐震 等級3	0棟 (0%)	0棟 (0%)	0棟 (0%)	2棟 (12.5%)	14棟 (87.5%)	
損傷イメージ ※3	概念図						

※1. 出典：国の熊本地震における建築物被害の原因分析を行う委員会 報告書より

※2. 7棟のうち3棟は接合部仕様が不十分であり、1棟は敷地の崩壊、基礎の傾斜等が確認された。

※3. 参考資料：ヤマベの木構造 著者：山辺 豊彦

出典：（一社）くまもと型住宅生産者連合会「耐震等級3のススメ」